



みんなで一日でも早い終息を祈りたいです。

令和2年度がスタートしました。しかしコロナウィルス感染症拡大防止のため、4月11日(土)より5月6日(水)まで臨時休業となりました。ただし、体調や課題確認のため、字別の登校班ごとに分散登校で、子どもたちは一週間に一度登校しました。(強制参加ではありません。)一日当たり、約30人の子どもが登校し、自分の教室に分かれ学習をしました。

健康観察票の回収と確認から始まり、読書、そして各自が持ち参した課題に取り組みました。特に中高学年の集めた頑張り、た毎日、感心しました。自分でわからない漢字を中国語辞典で調べたり、47都道府県名を地図帳で確認したり、小数の割り算に苦戦し、ながらも一生懸命に取り組む姿はとてすばらしかったです。本来ならば学年の全員がそろって学習をするところが理想ですが、今は叶いません。

ところが、4月20日(月)以降も分散登校を予定していましたが、緊急事態宣言を受けて、実施できなくなりましました。今は、終息を願う、校舎や運動場に子どもたちの元気な声が聞こえることを願っています。

四つの子どものための具体的な実践

5月7日(木)からの学校再開を祈りながら、今年度も子どもたちの具体的な実践を以下の四つにします。

本校では校訓を「良知に生きる」、学校教育目標を「自ら学び心豊かでたくましい子どもの育成」としています。

中江藤樹先生、生誕の地を学区にもつ学校として、先生の教えの一つである五事を正す、【貌言視聴思】を基本として今年度も子どもたちの具体的な実践目標を以下の四つとします。

【貌言視聴思】

- 貌とは『なごやかな顔つき』
- 言とは『思いやりのあることばで話しかけ』
- 視とは『澄んだ目でものごとを見つめ』
- 聴とは『耳を傾けて人の話を聴き』
- 思とは『まごころをこめて相手のことを思う』

【子どもたちの具体的な実践】

- 「あいさつ」  
誰に対しても自分からあいさつができること。
- 「話を最後まで聞く」  
人の話にしっかりと耳を傾けて最後まで聞くこと。
- 「あきらめない」  
自分の決めた目標や夢に向かって粘り強く頑張ること。
- 「地域でもかつやくする」  
学校だけでなく、自分の住んでいる地域で活躍すること。

本年度の重点目標	具体的方策
<p>1. 学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「我が校の学ぶ力向上策」の点検、見直しにより学力向上を図る。</li> <li>・保護者と学校が連携し、家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>・基礎基本の徹底を図るため、算数等における少人数学習を充実させる。</li> <li>・ICTの積極的な活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「我が校の学ぶ力向上策」に評価、改善を加え、実効性のあるものにする。</li> <li>○家庭学習を習慣付けるため、『一家庭一家訓』、『ノースクリーンデー』運動を保護者と連携して展開する。（『一家庭一家訓』の啓発）</li> <li>○日常の授業において、導入の工夫、めあて、振り返りの確認を意識する等、わかる授業の実践。</li> </ul>
<p>2. 言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科における言語活動を基盤として、さらに枠を広げて各教科においてその特性を生かしながら言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育む。</li> <li>・読書指導を充実させ、読書の楽しさを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研究のテーマ「子どもたちが思考力を高めながら、主体的に学ぶ授業の創造」の確実な実践。</li> <li>○言語活動を充実させるための書く活動を多く取り入れた授業改善に取り組む。</li> <li>○「読み聞かせ」や図書の紹介等を通じてより本に興味をもたす。</li> <li>○「先生はわからない時に丁寧に教えてくれる。」（児童評価90%以上）</li> </ul>
<p>3. 小中一貫教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫カリキュラムを活用し、めざす15歳の姿を共有し、現段階での教育活動を追及する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習活動が、上学年や中学校でのどの学習につながるかを意識した授業づくりに取り組む。</li> </ul>
<p>4. 健康の保持増進と体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども体力向上プラン」に基づく取組を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育科の学習を核とした運動遊びを促進する。</li> </ul>
<p>5. 集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の定着を図る。</li> <li>・はじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。</li> <li>・周りの子どもたちや大人に対して思いやりの気持ちをもって接することのできる集団を育成する。</li> <li>・異学年交流を通して望ましい人間関係の育成とリーダーを育てる。（縦割り活動、集団登下校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導に関する情報交換や、月例(臨時)校内ケース会議を持ち、適切かつ早期に対応する。</li> <li>○「縦割り活動や全校的な行事では、自分から進んで活動している。」（児童評価90%以上）</li> <li>○「進んであいさつや返事をしている。」（児童評価90%以上）</li> <li>○異学年との交流等を通して社会性を身につける。</li> </ul>
<p>6. “藤樹”学習を中心とした地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中江藤樹の教を学ぶ機会や、地域の「人・もの・こと」から体験的に学ぶ機会を積極的に設ける。</li> <li>・「藤樹デー」は、全校児童が楽しみ学べるように、高学年が中心になって企画する場面を設ける。</li> <li>・ACや地域学校協働本部と確実に連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「掃除を頑張っている」（児童評価90%以上）</li> <li>○「学校では藤樹先生に関する学習をしている。」（児童評価90%以上）</li> <li>○「藤樹デー」「大洲小学校との電話交歓会」等の本校ならではの取組の継続。</li> </ul>
<p>7. 教職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの力を引き伸ばす教職員の実践力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもにトコトン関わる（学習・運動・遊び等）</li> <li>○積極的な研修への参加とOJTの推進</li> </ul>

◇◇◇◇◇教職員の姿勢◇◇◇◇◇

1. 10年先を生きる子どもたちの姿を見通し、思考力・判断力・表現力を育む。
2. はじめのある生活を送り、社会性を身につけた児童を育てる。
3. 子どもにはトコトン関わり、保護者の相談や悩みには親身になって話を聴く。
4. 時代の変化やキャリアステージに応じて高い課題意識をもって意欲的に学び続ける。